

P

第一形態 $G - G'$
 $G - W \cdots W' - G' = G - W - G$
 第二形態 $P - P$
 $W' - G' . G - W = W - G - W$

商品資本 $W' = W + g(w)$

- 128 商品資本循環の一般定式 $W' - G' - W \cdots P \cdots W'$
 ・拡大再生産 終点の W' は、始点の W' より大きい。
 W'' で表示されるべき。
- 第三形態と前両形態との差異
- 129 ・第一に、第三形態では二つの相反する段階をもつ総流通が循環を開始する。第一形態では、流通が生産過程によって中断され、第二形態では、二つの補足し合う段階をもつ総流通が、再生産過程の媒介としてのみ現れ、 $P \cdots P$ 間の媒介運動を形成する。
- ・ $G - G'$ (第一形態)では、流通形態は $G - W \cdots W' - G' = G - W - G$ である。 $P - P$ (第二形態)では、逆の形態 $W' - G' . G - W = W - G - W$ である。 $W' \cdots W'$ でも、後者(第二形態)の形態をもつ。
- ・ 第二に、第一循環と第二循環の反復においては、終点 G' と P' が更新された循環の出発点をなす場合にも、**それらが生み出された形態は消失する**。 $G' = G + g$ も、 $P' = P + P$ も、再び G および P としてあらたな過程を開始する。
- だが、第三形態では、循環が同じ規模で更新される場合にも、出発点 W は W' として表示されねばならない。**
- ・ G' は価値増殖された資本、剰余価値をはらんだ資本としては、資本関係としては存在しない。それは、これから過程で増殖されるものである。 $P - P'$ についても同じである。
- ・ **商品資本の循環は、資本価値をもって開始されるのではなく、商品形態で増加された資本価値をもって開始される。初めから商品形態で存在する資本価値の循環のみではなく、剰余価値の循環を含んでいる。**
- 130 単純再生産では、終点でも出発点でも、同じ大きさの **W' が現れる**。つねに W' は、資本価値+剰余価値に等しい商品資本として循環を始める。 W としての W' が、**個々の産業資本の循環中に現れるのは、この資本の形態ではなく、その生産手段を生産物とするかぎりでの他の一産業資本の形態としてである。**
- 131 ・第一の資本の $G - W (= G - P_m)$ は、この第二の資本にとっては $W' - G'$ である。流行程の $G - W (A + P_m)$ の行為は、この第二の資本にとっては $W' - G'$ である。
- ・ P_m と A とは、次の点でのみ区別される。売り手の手中にある P_m は、それが売り手の商品形態である場合には W' であり資本でありうるが、 A は労働者にとって、ただ商品であるにすぎず、買い手の手中において初めて、 P の構成部分として資本となる。
- ・ W' そのものの循環においてのみ、 $W = P$ = 資本価値は、 W' 中の剰余価値をなす部分から、剰余生産物から分離できる。 W' が G' に転化さえすれば、分離されうるものとなる。

W	一万封土の糸	500ポンド
C	7440封土	372ポンド
V	1000封土	50ポンド
m	1560封土	78ポンド

図解例の分割根拠

132

図 解 1

I 500ポンド価値 1万封土の糸
422ポンド 8440封土 商品形態Wで売る
78ポンド 1560封土剰余価値 後に流通
資本家は剰余生産物の流通w-g-w以前に、W-G-W(A+Pm)を遂行しうる。

II 372ポンドで売る 7440封土の糸
50ポンド 〃 1000封土

I では、生産手段(不変資本C)、II では、労働力を回収することになる。

133

・資本家は、W' をC+V+mに分割するかわりに、W' の諸可徐部分を次のように分割しうる。

W' (1万封土の糸 500ポンド)

I 不変資本部分 7440封土の糸372ポンドの内、次を補填
・生産手段価値 5535.360封土 276.768ポンド
・可変資本 744封土 37.200ポンド
・剰余生産物 1160.640封土 58.032ポンド

売られた7440封土のうち、6279.360封土を313.968ポンドで売ることにより、資本価値を回収し、剰余生産物1160.640封土の価値=58.032ポンドを収入として支出できる。

II 1000封土の糸 50ポンド可変価値を分割
可変資本
744封土 37.200ポンド
100封土 5.000ポンド
844封土の糸 42.200ポンド
…1000封土の糸に含まれる資本価値に相当
156封土の糸 7.800ポンド 剰余生産物を表す

III 残り1560封土 78ポンド を売却
1160封土 58.032ポンド
・1560封土中に含まれる生産手段価値を回収
156封土 7.800ポンド
・ 〃 可変資本価値を回収
・ 合計
1316.640封土の糸 65.832ポンド 総資本価値を補填
・最後に剰余生産物243.360封土 12.168ポンドが残り
収入とて支出される。

134

図 解 2

・ I 封土の糸 1シリリング=12ペンスの価値
C=0.744封土の糸 8.928ペンス
V=0.100 〃 1.200 〃
m=0.153 〃 1.872 〃

C+V+m = 1 12ペンス

		・ 不変資本 <table><tr><td>第一販売</td><td>5535.360</td><td>封土の糸</td><td>=</td><td>276.768</td><td>ポンド</td></tr><tr><td>第二</td><td>744.000</td><td>〃</td><td>=</td><td>37.200</td><td>〃</td></tr><tr><td>第三</td><td>1160.640</td><td>〃</td><td>=</td><td>58.032</td><td>〃</td></tr><tr><td>合計</td><td>7440</td><td></td><td>=</td><td>372</td><td>ポンド</td></tr></table>	第一販売	5535.360	封土の糸	=	276.768	ポンド	第二	744.000	〃	=	37.200	〃	第三	1160.640	〃	=	58.032	〃	合計	7440		=	372	ポンド																																																
第一販売	5535.360	封土の糸	=	276.768	ポンド																																																																					
第二	744.000	〃	=	37.200	〃																																																																					
第三	1160.640	〃	=	58.032	〃																																																																					
合計	7440		=	372	ポンド																																																																					
135		・ 可変資本 <table><tr><td>第一販売</td><td>744</td><td>封土の糸</td><td>=</td><td>37.200</td><td>ポンド</td></tr><tr><td>第二</td><td>100.000</td><td>〃</td><td>=</td><td>5.000</td><td>〃</td></tr><tr><td>第三</td><td>156.000</td><td>〃</td><td>=</td><td>7.800</td><td>〃</td></tr><tr><td>合計</td><td>1000</td><td></td><td>=</td><td>50</td><td>ポンド</td></tr></table> ・ 剰余価値 <table><tr><td>第一販売</td><td>1160.640</td><td>封土の糸</td><td>=</td><td>58.032</td><td>ポンド</td></tr><tr><td>第二</td><td>156.000</td><td>〃</td><td>=</td><td>7.8200</td><td>〃</td></tr><tr><td>第三</td><td>243.360</td><td>〃</td><td>=</td><td>12.168</td><td>〃</td></tr><tr><td>合計</td><td>1560</td><td></td><td>=</td><td>78</td><td>ポンド</td></tr></table> ・ 総計 <table><tr><td>不変資本</td><td>7440</td><td>封土の糸</td><td>=</td><td>372</td><td>ポンド</td></tr><tr><td>可変資本</td><td>1000</td><td>〃</td><td>=</td><td>50</td><td>〃</td></tr><tr><td>剰余価値</td><td>1560</td><td>〃</td><td>=</td><td>78</td><td>〃</td></tr><tr><td>合計</td><td>10000</td><td></td><td>=</td><td>500</td><td>ポンド</td></tr></table>	第一販売	744	封土の糸	=	37.200	ポンド	第二	100.000	〃	=	5.000	〃	第三	156.000	〃	=	7.800	〃	合計	1000		=	50	ポンド	第一販売	1160.640	封土の糸	=	58.032	ポンド	第二	156.000	〃	=	7.8200	〃	第三	243.360	〃	=	12.168	〃	合計	1560		=	78	ポンド	不変資本	7440	封土の糸	=	372	ポンド	可変資本	1000	〃	=	50	〃	剰余価値	1560	〃	=	78	〃	合計	10000		=	500	ポンド
第一販売	744	封土の糸	=	37.200	ポンド																																																																					
第二	100.000	〃	=	5.000	〃																																																																					
第三	156.000	〃	=	7.800	〃																																																																					
合計	1000		=	50	ポンド																																																																					
第一販売	1160.640	封土の糸	=	58.032	ポンド																																																																					
第二	156.000	〃	=	7.8200	〃																																																																					
第三	243.360	〃	=	12.168	〃																																																																					
合計	1560		=	78	ポンド																																																																					
不変資本	7440	封土の糸	=	372	ポンド																																																																					
可変資本	1000	〃	=	50	〃																																																																					
剰余価値	1560	〃	=	78	〃																																																																					
合計	10000		=	500	ポンド																																																																					
136		・ 第一形態 $G - G'$ 生産過程は二つの流通段階の中間貨幣(前貸し資本)―生産要素に転化―商品生産物に転化―ふたたび貨幣へ転換―貨幣からより多くの貨幣の運動																																																																								
137		・ 第二形態 $P \cdots W' - G' - W \cdots P(P')$ 総流過程は、第一のPの後に続き、第二のPに先行する。それは第一形態とは反対の順序である。第一のPは生産資本で、後の流過程り先行条件としての生産過程である。 これに反し、終局のPは生産過程ではない。それは生産資本としての形態の産業資本の再存在に過ぎない。 そうであるのは、最後の流通段階で資本価値が$A + pm$に、相合して生産資本の存在形態である主体的要因と客体的要因とに転化された結果である。 資本はPであれP'であれ、終局では再び新たに生産資本として生産過程遂行する形態で用意される。$P \cdots P'$は、再生産の形態であって、$G - G'$のよううに過程の目的としての価値増殖を示してはいない。 ※ 古典派経済学の間違い																																																																								
	第一形態 $G - W \cdots W' - G'$ $= G - W - G$ 第二形態 $P \cdots W' - G' - W \cdots P(P')$ 第三形態 $W' - G' - W \cdots P \cdots W'$	138 ・ 第三形態$W' - G' - W \cdots P \cdots W'$では二つの流過程の段階により循環が開始、その順序は第二形態$P \cdots P$と同じである。 第二形態―生産資本の単なる再存在としてのPで循環終了。第三形態―商品資本の再存在としてのW'で終了。 ・ 第二形態の終局形態Pが生産過程として再開せねばならないのと同様、第三形態では商品資本の形態で流通段階$W' - G'$をもって新たに循環が開始されなければならない。																																																																								

- 139

 - ・両循環形態は未完結である。それらは貨幣に移転化され価値増殖された資本価値 G' をもって終わるのではないからである。さらに継続し再生産を含む。第三形態の総循環は、 $W' - W'$ である。
 - ・第三形態を前の両形態から区別されるのは、この循環でのみ、これから増殖されるべき最初の資本価値ではなく、すでに増殖された資本価値が、その価値増殖の出発点として現れるということである。
 - ・相対としての消費(個人的および生産的)が条件して W' の循環 $W' - W'$ に入る。

第一と第二形態では、総運動が前貸しされた資本価値の運動として表示され、第三形態では、価値増殖された資本が商品生産物の姿で出発点をなし、みずから運動する資本、商品資本の形態をもつ。

その貨幣への転化の後に初めて、この運動は**資本運動と収入運動**に分かれる。一方の個人的消費原本、他方の再生産原本へ。
- 140

 - ・ $G - G'$ の循環拡大の可能性 更新・循環に入る g の大きさによる。 $P \cdots P$ では、同じ価値あるいはより小さい価値で循環開始。拡大再生産は労働生産性の高まりで商品が低廉になる場合。逆の場合、縮小された規模の再生産を表示。同じことは $W' - W'$ についても言える。
- 141

 - ・ $W' \cdots W'$ のもう一つの第一、第二形態との区別。
三つの循環の共通性—資本の循環過程の開始形態と終結形態は同じ。端緒形態を繰り返す。
 - ・ G 、 P 、 W' は、常に資本価値は前貸しされた形態で、循環の最初の形態。終局形態 G' 、 P 、 W' は、最初の形態ではなく、循環中に先行する一機能形態の転化形態。
 - ・ 第一形態では G' は W' の転換形態、第二形態では、終点 P は G の転化形態、第一と第二形態では、この転化は表品流通の単純な行程で、商品と貨幣との形式的な位置交換で引き起こされる。
 - ・ 第三形態では、 W' は生産資本 P の転化形態。しかし、この第三形態では、第一にこの転化が資本の機能的形態だけでなく、資本の価値量にも関係している。第二にこの転化は、単に形式的な位置交換の結果ではなく、生産資本の商品構成部分の使用価値と価値とが、生産過程で遂行した現実の転化の結果である。
 - ・ W' は、**一個別産業資本循環の終点としては、 W' を生産物とする同じ産業資本の、流通には属さない形態 P のみを前提する。**
 - ・ 第一循環における終点としての G' は、 W' の転化形態 ($W' - G'$) として、買い手にある G を前提し、 G が循環 $G \cdots G'$ の外部して W' の売りによってこの循環に引き入れられ、循環の終局形態とされることを前提する。
 - ・ 同様に第二循環では、終点 P は、 A と $P_m(W)$ を、外部に存在して $G - W$ によって終局形態の P に合体するものとして前提する。
- 142

 - ・ 第一循環では G が、第二循環では P が最初の貨幣資本であ

り、最初の生産資本でありうるが、第三循環の

$$W \left| \begin{array}{l} W - G - W(A + P_m) \cdots P \cdots W' \\ - G \\ w - W \end{array} \right. \begin{array}{l} G - W(A + P_m) \cdots P \cdots W' \\ g - w \\ W \end{array}$$

では、Wが循環の外部で二回前提されている。一回はW' - G' - W(A+Pm)なる循環において。このWは、それがPmからなる限りでは、売り手の商品である。資本主義的生産物である限り、商品資本である。

- w - g - wにおける第二のwも買われるためには商品として存在していなければならない。AとPmはW'と同様に商品であり、相互に商品として関係しあう。

同じことが、w - g - wにおける第二のwについても言える。W' = W(A+Pm)である限り、Wは商品を自身の形成要素とし、流通で同じ諸商品によって置き換えなければならない。w - g - wにあっても、第二のwは流通で他の同じ諸商品に置き換えなければならない。

- 143
- 資本主義的生産様式の上では、売り手の手中の一切の商品が商品資本である。生産資本Pがそれから成り立つ商品要素のAとPmは、Pの存在形態として商品市場にある時と同じ姿態を持っていない。いまでは合一され、結合されたかたちで生産資本として機能する。

- 第三形態においてのみ、循環内部でWがWの前提として現れるのは、出発点が商品形態における資本であることからくる。循環はW'がその生産要素をなす諸商品に換えられることによって開始される。

しかし、この転化は全流過程W - G - W(=A+Pm)を包括するものであり、この過程の結果である。

ここでは、Wが両極に立っているが、商品市場からG - WによってW形態をうけとる第二の極は、循環の最終極ではなく、最初の二段階の最終局にすぎない。流過程の結果はPで、次にその機能の生産過程が始まる。

結果として、流過程の結果としてではなく、W'が循環の終局として、端緒極のW'と同じ形態で現れる。

- これに反し、G - G'およびP - P'では、終結極であるG'とPは、流過程の直接の結果である。

- 144
- ここでは、ただ終局においてのみ、一方ではG'が、他方ではPが他人の手にあるものとして前提されている。

- 循環が両極の間で行われる限り、一方の場合のGも、他方の場合のPも一他人の貨幣としてのGの存在も、他人の生産過程としてのPの存在も一これらの循環の前提としては現れない。

- これに反してW' - W'は、他人の手中の他人の諸商品としてのW(=A+Pm)を前提し、循環に引き入れられて生産資本に転化され、生産資本の機能の結果として、W'が再び循環の終局となる。

- W - W'の循環は、内部にW(=A+Pm)の形態の他の産業資本を前提する(Pmは例えば機械、石炭、油等)がゆえに、各個の産業資本の社会的形態として、諸個別資本の総計、総資本の運動形態として考察することを要求する。

- W...W'は、前貸しされた資本価値が運動を開始する極

- の一部分をなすに過ぎず、初めから産業資本の全体運動を示す唯一の循環である。生産資本を補填する生産物部分の運動であり、剰余生産物を形成し、一部は収入として支出され、一部は蓄積要素としての生産物部分の運動である。
- 146
- ・資本主義的に生産された物品は、生産用であると個人的消費用であるを問わず、すべて商品資本である。
 - ・ $G-G'$ は、ただ価値側面、前貸し資本価値の増殖のみを指示する。 $P \cdots P(P')$ は、生産資本の再生産過程、蓄積としての資本の再生産過程を指示する。 $W \cdots W'$ は、その始発極において、資本主義的商品生産の姿態をしめされている。生産的消費、価値増殖はその運動の分枝として現れるにすぎない。
 - ・ $W \cdots W'$ が社会的総資本の運動の形態と見なされるか、一個別産業資本の独立の運動と見なされるかによって、種々の生産物で表現される W' の種々の価値構成部分は、異なる地位を占めるということは初めから明らかである。
 - ・ $W' \cdots W'$ の形にあっては、商品資本、資本主義的生産の総生産物の運動は、個別資本の独立の前提として現れ、またこれに制約されたものとしても現れる。
- 147
- ・ $W' \cdots W'$ の循環が、一個の個別資本の形態として現れるのは、例えば農業の場合である。第二形態では播種が、第三形態では収穫が出発点とされる。資本価値の運動は、第三形態では初めから一般的生産物の運動の部分としてのみ現れるが、第一形態と第二形態では、 W' の運動は、個々の資本の運動の一要因をなすにすぎない。
 - ・第三形態では、市場にある商品が、生産過程および再生産過程の不断の前提をなす。
 - ・ $W \cdots W'$ では、総生産物(価値)が出発点であり、拡大再生産が行われうるのは、剰余生産物中の資本化される部分のうちに、追加的生産資本の素材的要素が含まれている場合に限る。